

高内鉄弥家寄贈文書と目録作成について

1 「高内家を取り壊す。市でほしいものがあれば、あげる」との情報が須坂市生涯学習スポーツ課に入り、平成25年5月16日、事前調査に同行を求められた。

高内家の敷地は金井原通りに面していて、道端は貸駐車場になっている。母屋は老松の庭をはさんでその奥にあり、鉄板で覆った茅葺切妻の平屋である。明治期か、幕末を思わせる古民家である。濡れ縁の軒裏には立派な縁虹梁があり、後補とみられた。間取りは勝手・茶の間・座敷、裏側に北の間・奥座敷に当たる部屋がほぼ田の字型である。

最近まで縁者が住まわられていて、独居老人となり最後は老人ホームに入居されていた。近隣に家を継ぐ方がなく、高内氏の奥さん側の縁者の倉田晃典さん(長野市在住)が面倒を見ておられた。当日はその代理人の宇田川義雄氏が見えて、立ち会われた。

2 高内鉄弥氏は、明治21年生まれ、明治40年に長野中学校を卒業し、明治43年に農商務省東京蚕業講習所製糸科本科を卒業、大正4年1月10日発令で大日本蚕糸会神奈川支会から技芸委員を嘱託され、また同15日には神奈川県から製糸同業組合技術員として神奈川地方種繭審査会審査補助員を命じられている。その後千葉、島根、岐阜、群馬県に派遣され、そして昭和17年に長野県岡谷生糸検査所長となり、昭和23年12月28日に退官した。その後須坂市北原町の自宅に住んだ。

1956年、日本蚕糸新聞社が発刊した『蚕糸を荷う 3000人』には「高内鉄弥一氏は岡谷の生糸検査所長をしていた。現在須坂で晴耕雨読の生活をしている。氏も蚕人にしては珍しく文人趣味があり、染色の標本など立派なものをもっている。」とあるが、染色の標本については見当たらなかった。A軸物29本、B製糸関係研究文献、C書籍、Dその他、須坂に帰郷してからの自治会資料などが目に付いたので頂戴して目録化した。

3 これらの史料を「高内鉄弥家寄贈文書」として目録を作成した。『須坂市域の史料目録』の連番整理番号「061」（61番目）に位置づけ、史料番号は「061-A-1」から始めて整理番号を添付した。原則として時系列により配置した。

4 目録作成にあたっては史料形態を考慮しながら、つぎのように整理した。

(1) 史料名は原則として史料の表題を記載したが、表題のない史料は目録作成者が内容を検討して記載した。

(2) 史料形態については、横（横帳）、縦（縦紙）、紙（一紙）、綴、括、束などと記載した。

5	<u>記号</u>	<u>分類項目</u>	<u>総史料番号</u>	<u>史料点数</u>
	A	軸物	28	28
	B	製糸関係	56	64
	C	書籍等	67	76
	D	その他	27	36
	E	博物館所蔵	35	54
		合計		258

- 6 本史料目録は、須坂市誌編さん室の下記専門員が分担して作成した。
 青木 井上 柳澤 上條

(編さん担当：青木廣安)

2013年6月26日

須坂市誌編さん室